

安全訓練 「ライフジャケット&ライフラフトの展開」

2013/09/21 (土) ラグナマリーナ

JSAF外洋東海・ラグナマリーナヨットクラブ 共同開催

約 60 名参加

今回の訓練のテーマは、「ブラインド・セーリング」に挑戦していて6月21日に救助されたヨット「エオラス号」の遭難事故から、ライフジャケットとライフラフトの展開としました。

また今回の訓練は、シドニーホバードレース参戦に際して、セールオーストラリアの指導を受けた「Bengal 7」チームに、その訓練内容を参考に机上講習および実地訓練をお願いしました。

机上講習

1 プレジャーボートの安全航行について

三河海上保安署・岡田係長



2 ライフジャケットの種類と特性、テザーの特性について

講師 Bengal 7 原 健さん、安藤 康治さん



膨張式と非膨張式の浮力と浮く体勢について



非膨張式では水面でうつ伏せになることがあるが、膨張式はうつ伏せにならないように姿勢を保つ
グラブバックの収納品について



Bengal 7 ではライフラフト(8人用)を二つ用意しており、乗員にナンバーを付けて、乗るラフト
と運び出すグラブバックも指定している。

収納品は国際VHF無線機(ハンディ型)やE-PIRB、緊急用 飲料水・食糧 医薬品等、事前に検
討して装備している。

海面実地訓練

ライフジャケットの展開 膨張式、非膨張式ライフジャケット双方による浮遊実地

これまでに膨張させたことの無いライフジャケットの展開



非膨張式（左）と膨張式（右）

オイルスキンを着た状態で



浮遊状態での集合体勢 ハギングの実施



ハギングの形

ハギングによるサークルの作り方



サークルの中に体力の弱った人を維持する形、中は暖かいとのこと



浮遊状態での隊列の形

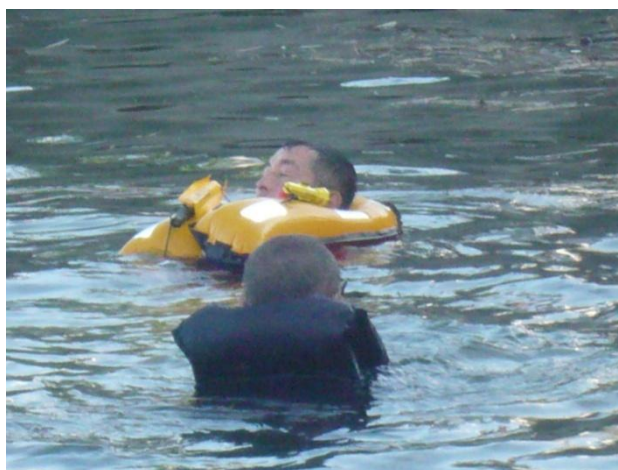
両手を動かし移動可能



隊列の組み方

膨張式の頭部を上に向ける形

股ひもの無い場合の浮き上がり



ライフジャケット着用浮遊訓練参加者

サザンクロス : 榊原 明夫さん

ナルミ : 村上 好さん

ベンガル 7 : 原 健さん (講師)

ドルフィン 6 : 千田 育宏さん

ベンガル 7 : 寺尾 真裕子さん

ベンガル 7 : 安藤 康治さん (講師)

ライフラフトの展開

1 海面へ放り入れる



2 展開用ガスのひも（赤色）を引く



3 自動展開



4 ひっくり返しに展開した時の戻し方
ラフトの底には水で安定させるドローグ付き



5 もやいを切るための先の丸いナイフが入口
付近についている



- ・ ラフトに乗る前に可能ならば小用を済ましておくこと、
- ・ 身体に突起物が無いこと（ラフトを傷付無いため）を確認する。
- ・ 乗ったら酔い止めを飲むこと（ラフトはかなり揺れるとのこと）

6 ラフトへの乗り込みの形 オットセイのように飛び込む



ラフト上部の海水ライトの水中BOXには、防水のシールが貼ってありました。
ラフト装備品のパドル（かい）は、沈没する船から離れるために使用する。
もやいロープはできるだけ長くなるように切り、他のラフトと連結して集団で元気づける。

今回のラフト展開訓練には、「D o l p h i n 6」大池オーナーからライフラフトの提供をいただきました。ありがとうございました。